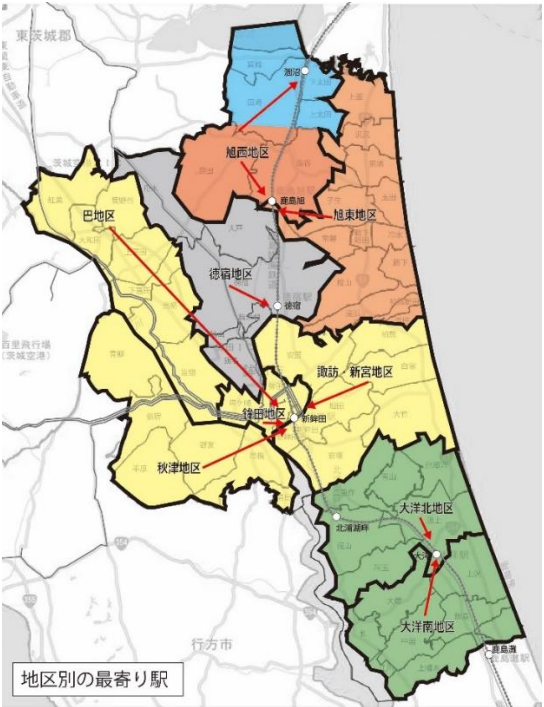


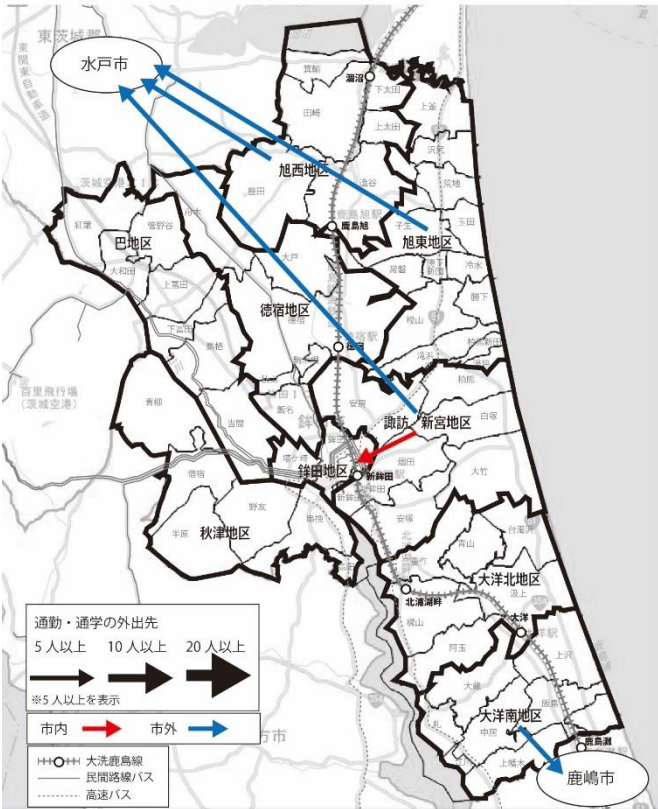
銚田市の公共交通体系の将来像について

1.市民の現状・課題

①居住地区別の利用の多い駅



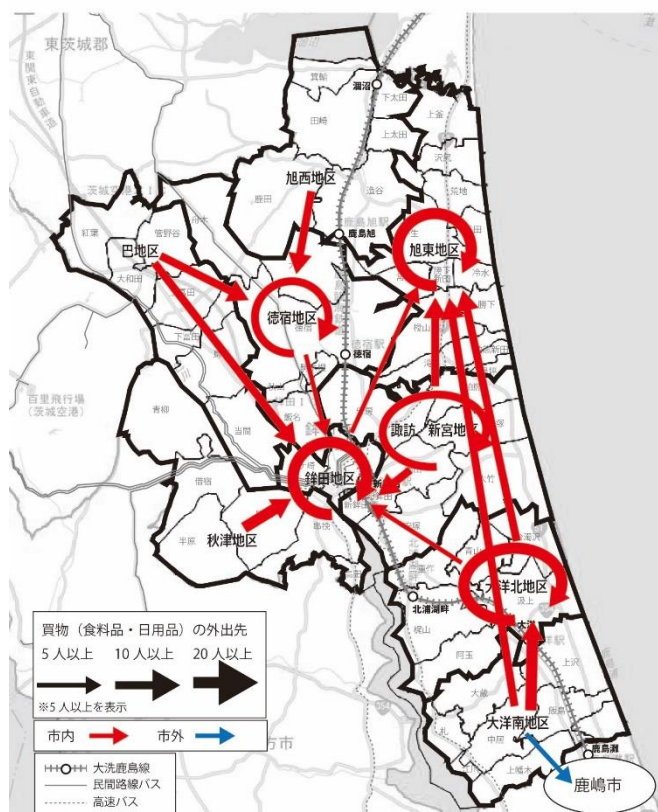
②通勤・通学の移動



市町村	人数	%
銚田市	96	43.8%
銚田市外	123	56.2%
total	219	100.0%

銚田市字	人数	%
銚田	20	20.8%
その他	62	64.6%
不明	14	14.6%
total	96	100.0%

③食料品・日用品の買物の移動

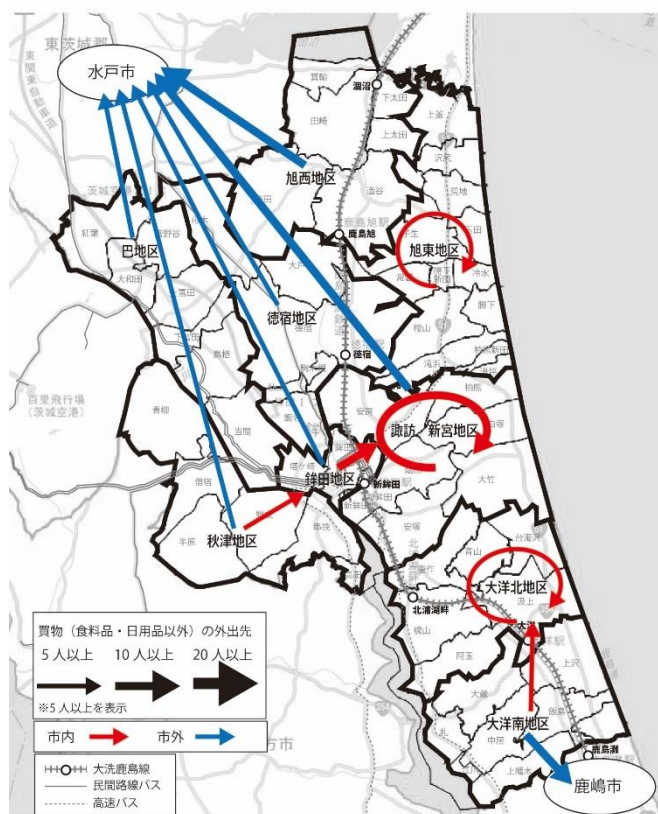


市町村	人数	%
銚田市	431	91.1%
銚田市外	42	8.9%
total	473	100.0%

銚田市市字	人数	%
滝浜	98	29.4%
塔ヶ崎	55	16.5%
銚田	37	11.1%
安房	28	8.4%
新銚田	5	1.5%
その他	110	33.0%
total	333	100.0%

銚田中心地区施設名	人数	%
タイヨービッグハウス銚田店	125	22.5%
カスミ	69	12.4%
カスミフードスクエア銚田店	53	9.5%
セイミヤ	47	8.5%
フーズマーケットハビネ銚田店	33	5.9%
セイミヤ銚田安房店	28	5.0%
ウエルシア	13	2.3%

④食料品・日用品以外の買い物の移動

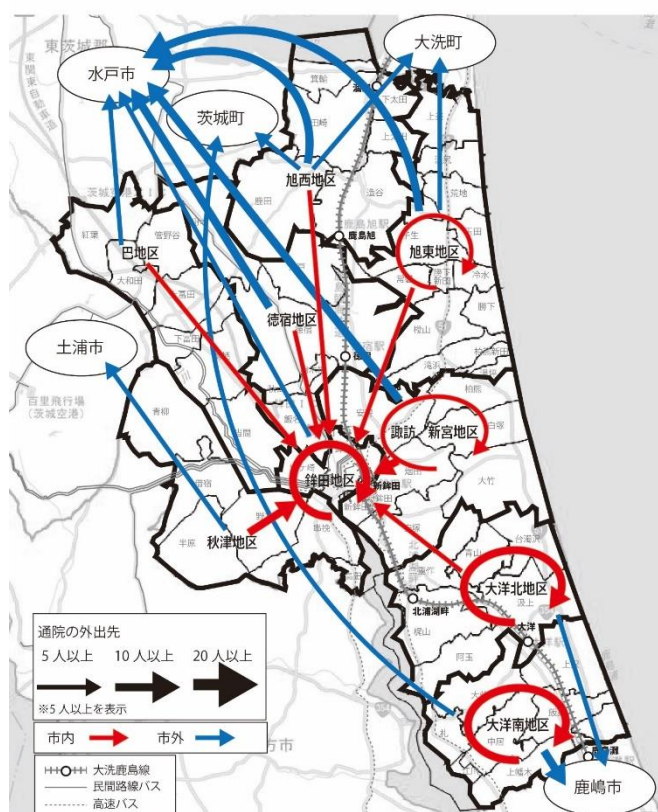


市町村	人数	%
銚田市	192	63.0%
銚田市外	113	37.0%
total	305	100.0%

銚田市市字	人数	%
安房	77	46%
銚田	15	9%
滝浜	14	8%
塔ヶ崎	10	6%
新銚田	1	1%
その他	50	15.0%
total	167	50.2%

銚田中心地区施設名	人数	%
ホームセンター山新銚田店	68	20.0%
コメリ	20	5.9%
カワチ薬品銚田店	18	5.3%
しまむら銚田店	14	4.1%
タイヨービッグハウス銚田店	14	4.1%
カスミ	11	3.2%
セイミヤ	10	2.9%

⑤通院の移動

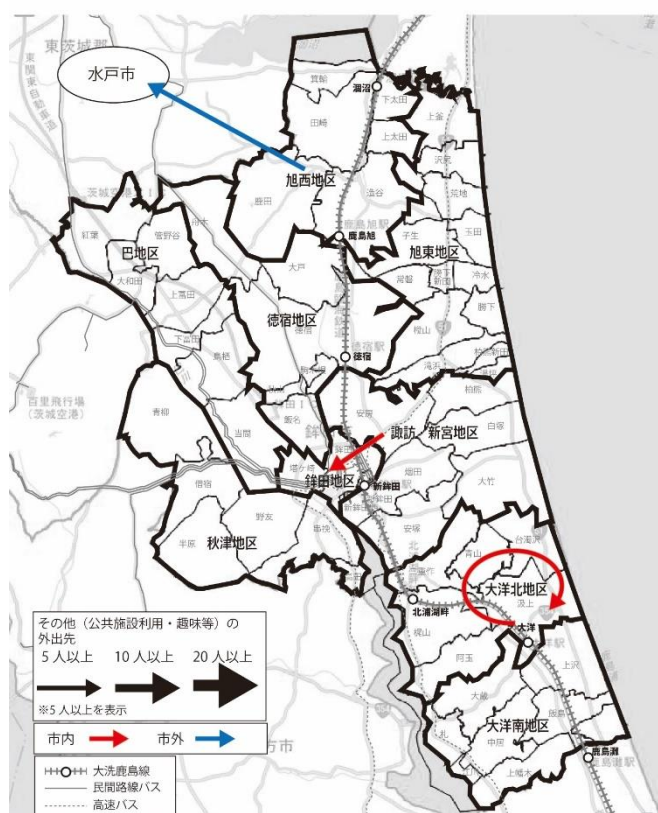


市町村	人数	%
銚田市	176	46.4%
銚田市外	203	53.6%
total	379	100.0%

銚田市字	人数	%
銚田	77	45.3%
安房	27	15.9%
新銚田	1	0.6%
その他	65	38.2%
total	170	100.0%

鉾田中心地区施設名	人数	%
高須病院	36	8.9%
鉾田病院	31	7.7%
ハタミクリニック	22	5.4%

⑥公共施設利用・趣味等のその他の目的の利用



市町村	人数	%
銚田市	61	51.7%
銚田市外	57	48.3%
total	118	100.0%

銚田市字	人数	%
銚田	18	31.0%
新銚田	4	6.9%
塔ヶ崎	1	1.7%
安房	1	1.7%
その他	34	58.6%
total	58	100.0%

銚田中心地区施設名	人数	%
図書館	10	8.2%
ほっとパーク銚田	6	4.9%
スポーツプラザ山新銚田	5	4.1%
銚田市役所	5	4.1%
銚田中央公民館	3	2.5%

利用の多い施設は、新銚田駅周辺に多い。その他にも、舟木や大洋駅北側にも集中する場所がある。



2.市民の移動手段の考え方

現状、公共交通が必要でない住民も将来は必要と考えており、公共交通の維持・確保が望まれている。

●目指すべき姿の考え方

市民の主な要望		公共交通体系の考え方
行先	<ul style="list-style-type: none"> ・病院 ・買い物先（スーパー） ・駅やバス停 	<p>行先は、地区内、市内、市外（水戸市、茨城町、大洗町、土浦市、鹿嶋市）に及ぶ。</p> <p>特に市内では、各地区から鉾田中心地区への移動があるので、<u>各地区から鉾田中心地区への移動手段を確保する。</u></p> <p>また、市内だけでなく地区ごとに分散する近隣市町への移動需要に対応するため大洗鹿島線や路線バスを核として活用する。駅やバス停までの移動手段が確保できずに活用できない住民のため、地区別に需要の高い<u>乗り場までの移動手段を確保する。</u></p>
交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間に1便 ・8時台から16時台 ・<u>乗り場までは5分以内</u> ・片道150円 	<p>市域が広く人口が分散し、公共交通の利用意識が低い本市において、公共交通の乗り場まで5分以内というサービス水準を実現するために、各地域をコミュニティバスなどの路線定期型交通で対応する場合、運行ルートが長くなる上、全ての地域をカバーすることが難しいため、運行ルートを固定せず、需要に応じて運行する<u>デマンド型乗合タクシーでの移動を確保する。</u></p>
利便性改善	<ul style="list-style-type: none"> ・駅のエレベーター設置 ・情報の周知 	<p>公共交通の利用を促進するため、デマンド型乗合タクシーと大洗鹿島線や路線バスの乗継を促すため、交通結節点となる<u>駅施設のバリアフリー化や、情報の周知等の利便性改善</u>に取り組む。</p>



- 地区内及び鉾田中心地区への移動需要については、デマンド型乗合タクシーを充実させることで、市民の移動手段を確保する。
- 地区別に分散される近隣市町への移動需要については、既存公共交通である大洗鹿島線と路線バスを核として市民の移動手段を確保する。

●将来の市民の移動手段のめざすべき姿

将来のめざすべき姿		地域			
		既存公共交通沿線地域			公共交通 空白地域
		広域移動	市内移動	ラストワンマイル移動	
利用者像	一般市民等	自家用車			
	自立的移動が可能な交通弱者 (高齢者、障がい者、運転	大洗鹿島線、 高速バス、 路線バス	大洗鹿島線、 路線バス	自転車、徒歩 家族の送迎、 デマンド型乗合タクシー	家族や地域の方による送迎、 デマンド型乗合タクシー
	現状で鉄道・バスの利用が困難な交通弱者 (高齢者等)	家族や地域の方による送迎、 デマンド型乗合タクシー＋大洗鹿島線、路線バス	家族や地域の方による送迎、 デマンド型乗合タクシー		
	自由度が高い移動を行う市民	タクシー			
	介護が必要な障がい者等	訪問介護移送支援事業			

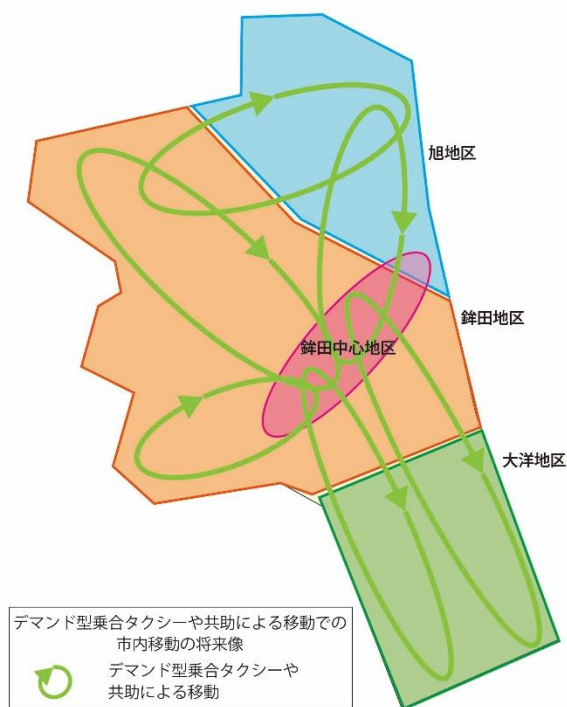
●公共交通体系の将来像



さらに、デマンド型乗合タクシーや地域の共助による移動と、大洗鹿島線や路線バスを組み合わせた利用により、公共交通空白地域から市外への移動手段を確保する。

移動先	市内移動	市外移動	
公共交通空白地域の人の移動手段	デマンド型乗合タクシー 地域の共助による移動	デマンド型乗合タクシー ＋大洗鹿島線 地域の共助による移動＋ 大洗鹿島線	デマンド型乗合タクシー ＋路線バス 地域の共助による移動＋ 路線バス
交通結節点		涸沼駅、鹿島旭駅、徳宿駅、 新鉾田駅、北浦湖畔駅、大 洋駅	鉾田駅、舟木
移動のイメージ	自宅前⇔地区内の主要施設 自宅前⇔鉾田中心地区の 施設	自宅前⇔駅⇔市外目的地	自宅前⇔鉾田駅⇔市外目的地

●市内移動の将来像



●市外移動の将来像



交通弱者の市外への移動手段の確保策として、デマンド型乗合タクシーから乗り継いで大洗鹿島線や路線バスを活用する。そのため、高齢者等も乗り継いで利用しやすいように、駅やバス停等の交通結節点のバリアフリー化が必要となる。

3.公共交通施策

公共交通施策を次表のとおりとする。銚田市公共交通将来ビジョンからの変更点は2点ある。バリアフリー化の観点から「②既存公共交通機関のバリアフリー化の推進」を追加した。また、「④公共交通の乗り場までの移動方法の確立」は、大洗鹿島線の駅までの移動方法の確立としていたが、路線バスの銚田駅もデマンド型乗合タクシーとの結節点となることを踏まえ修正した。

公共交通施策の中でも「④公共交通の乗り場までの移動方法の確立」と「⑥銚田市乗合自動車（デマンド型乗合タクシー）の拡大運行」を重点施策として位置付ける。重点施策は目指すべき姿の実現のために特に重要と考える施策であり、重点的に取り組む。

対象の公共交通	公共交通施策	重点施策
既存公共交通機関	① 既存公共交通機関への支援	
	② 既存公共交通機関のバリアフリー化の推進	
	③ 既存公共交通機関の利用促進	
	④ 公共交通の乗り場までの移動方法の確立	○
タクシー	⑤ 交通弱者へのタクシー利用料金助成	
デマンド型乗合タクシー	⑥ 銚田市乗合自動車（デマンド型乗合タクシー）の拡大運行	○
	⑦ 銚田市乗合自動車（デマンド型乗合タクシー）の利用条件・利用方法の見直し	
共助による移動	⑧ 地域ごとの自主的な送迎システムの構築・支援	
	⑨ 官民連携の移動システムの構築・支援	

4. デマンド型乗合タクシーの利用者数と運行台数の試算

現行の銚田市乗合自動車の利用実績をもとに、旭地区と銚田地区に現行と同様の条件でデマンド型乗合タクシーを導入した場合の利用者数を試算する。

銚田市乗合自動車の対象区域の 65 歳以上人口あたりの年間利用者数の率（％）（以下、利用率と記載。）は下記の通りである。

銚田市乗合自動車の 対象区域の 65 歳以上人口	銚田市乗合自動車の利用者数		利用率
5,503 人	H26 年度	5,114 人/年	92.9%
	H27 年度	6,372 人/年	115.8%
	H28 年度	5,934 人/年	107.8%
	H29 年度	5,618 人/年	102.1%
	H30 年度	5,205 人/年	94.6%

出典：H27 国勢調査の 500mメッシュデータ

これまでの利用率を参考に、今後の利用区域の拡大や利便性の改善による伸びを加味して利用率を 110%と想定し、全市の 65 歳以上人口に乗じて試算すると、年間約 17,833 人の利用が見込まれる。平日のみの運行とすると 1 日あたり利用者数は 72.5 人である。

（単位：人）	65 歳以上人口	利用率	年間利用者数	運行日数 （平日）	1 日あたり 利用者数
旭地区	3,206 人	110%	3,527 人	246 日	14.3 人
銚田地区	8,159 人	110%	8,975 人	246 日	36.5 人
大洋地区	4,846 人	110%	5,331 人	246 日	21.7 人
合計	16,211 人	110%	17,833 人	246 日	72.5 人

出典：住民基本台帳（H30.10.1 時点で抽出し、年齢要件は H31.4.1 で集計）

地区ごとの利用意向を考慮するため、市民アンケートをもとにした利用意向係数を算定する。

地区	回答数	コミュニティバスやデマンド 型乗合タクシーが運行し、鉄道 駅と自宅を結ぶ場合利用する	割合	大洋地区を 1 とした ときの係数 （利用意向係数）
旭地区	132 人	32 人	24%	0.73
銚田地区	314 人	91 人	29%	0.88
大洋地区	154 人	51 人	33%	1.00
合計	600 人	174 人	29%	0.88

利用意向係数を反映すると、年間約 15,616 人の利用が見込まれる。平日のみの運行とすると 1 日あたり利用者数は 63.5 人である。

(単位：人)	年間利用者数	利用意向係数	年間利用者数 (補正)	運行日数 (平日)	1 日あたり利用者数 (補正)
旭地区	3,527 人	0.73	2,582 人	246 日	10.5 人
鉾田地区	8,975 人	0.88	7,854 人	246 日	31.9 人
大洋地区	5,331 人	1.00	5,331 人	246 日	21.7 人
合計	17,833 人	0.88	15,616 人	246 日	63.5 人

現行の鉾田市乗合自動車は、2 台の車両を運行で使用し、1 台を予備としている。1 日あたり利用者数をもとに検討すると、旭地区は 1 台、鉾田地区は 3 台必要となる。

予備車については、大洋地区の 1 台を他地区の予備車として兼用できるか、各地区に用意すべきかで必要台数が異なる。

今回は現行の鉾田市乗合自動車と同様の条件での試算のため、車両の種類等が異なると台数が変わる可能性がある。但し、現行の鉾田市乗合自動車の 1 台あたりの平均利用者数は 4 人未満であり、定員 4 人のセダン型車両に変更した場合でも台数を変えずに運行できる可能性が高い。

(単位：人)	1 日あたり利用者数 (補正)	必要な車両台数	予備車台数
旭地区	10.5 人	1 台	0~1 台
鉾田地区	31.9 人	3 台	0~1 台
大洋地区	21.7 人	2 台	1 台
合計	63.5 人	6 台	1~3 台

5. デマンド型乗合タクシーでの移動手段確保に向けてのイメージ

デマンド型乗合タクシーでの移動手段の確保に向けては、下記の項目について検討を進めていく必要がある。

(1) 事業の目的

デマンド型乗合タクシーを導入し、公共交通空白地域における市民の移動手段や、公共交通圏域内で身体的に鉄道やバスを利用できない市民の地区内移動に対する移動手段を確保する。

(2) 事業内容

今後詳細に検討。

(記載例)

デマンド型乗合タクシーは、事前登録制かつ完全予約制とし、自宅近辺から地区内や鉾田中心地区の目的施設まで直接移動することができます。また、一度に利用できる人数は限られますが、狭い道路でも運行できるほか、自宅から目的施設に直接移動できるため、バスや鉄道の利用圏域外の市民も利用することが可能です。

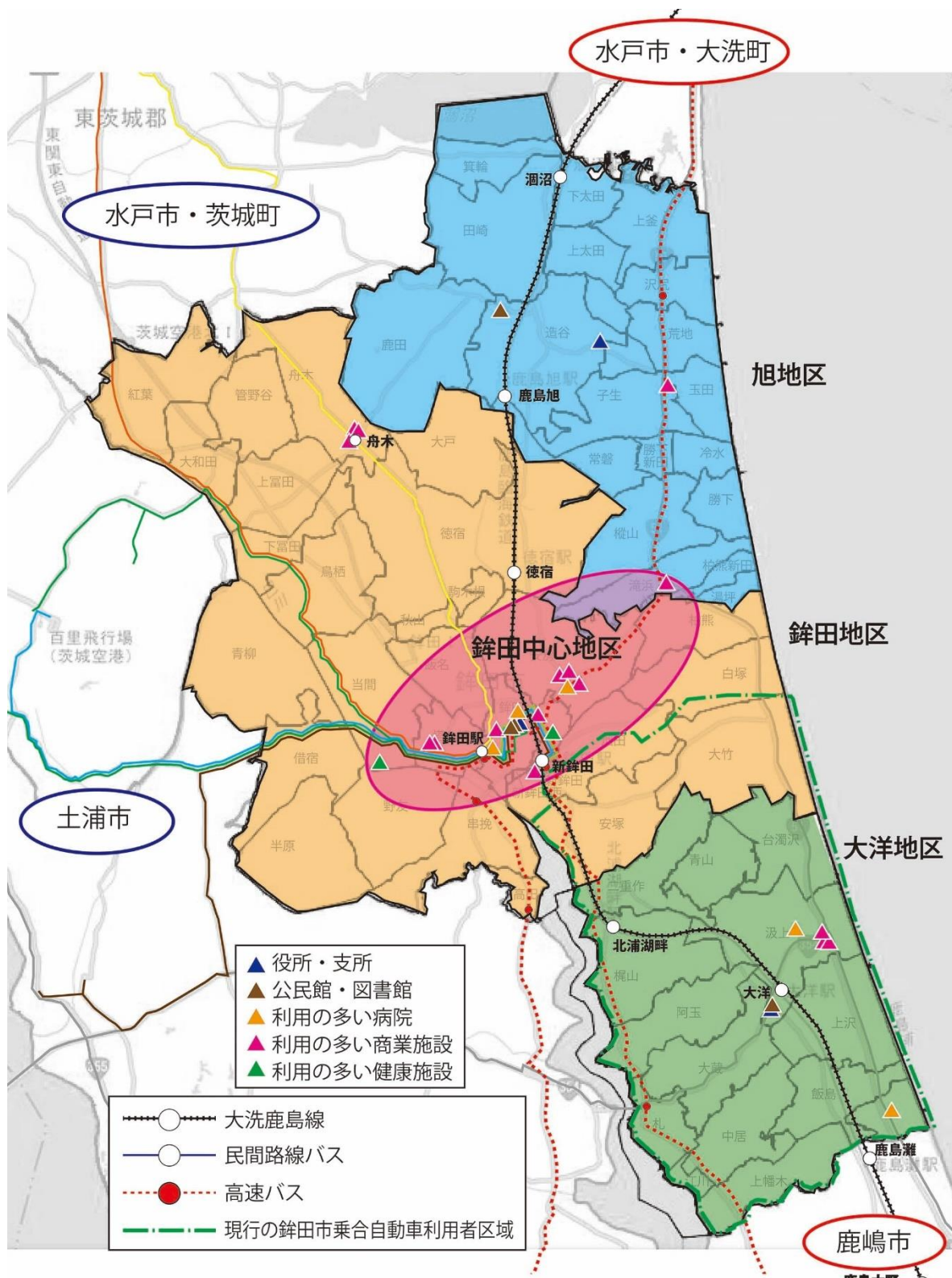
デマンド型乗合タクシーの導入にあたっては利用者数や利用状況、一定の効果等を把握しながら、改善、見直しを行っていくこととします。

(3)運行区域

市内を旭地区、銚田地区、大洋地区、銚田中心地区に分ける。それぞれ利用者の居住地区と銚田中心地区を利用地区とする。

地区の線引き、分け方については今後詳細に検討。

居住地区	旭地区	銚田地区・銚田中心地区	大洋地区
利用可能地区	旭地区・銚田中心地区	銚田地区・銚田中心地区	大洋地区・銚田中心地区

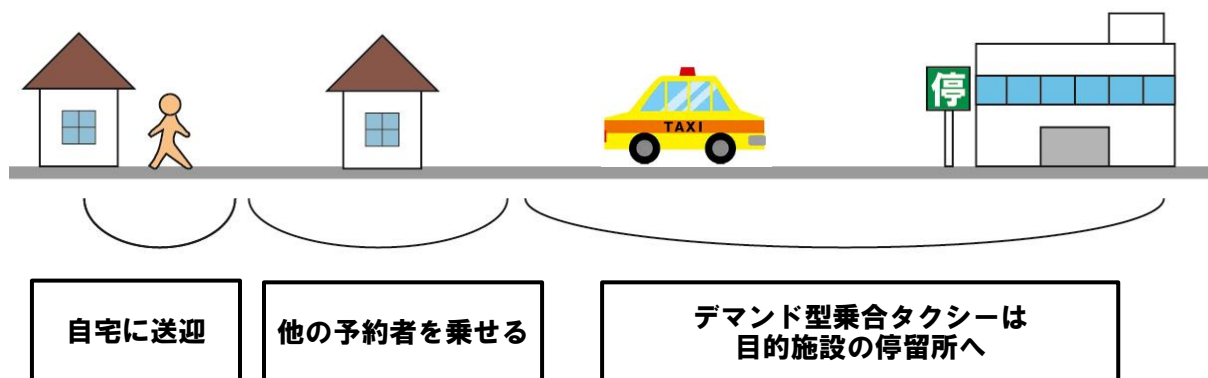


(4)乗降場所と運行ルート

現行の銚田市乗合自動車と同様に、着地限定型のドアツードアの運行とする。自宅もしくは自宅付近の乗降場所から、予め指定されている目的施設への送迎を行う。

目的施設は運行区域内の医療機関、消防関係、郵便局、銀行、駅（鉄道）、バス停、県及び市の機関、商業施設に限定する。それ以外の目的施設に直接行きたい場合は、民間のタクシーの利用を想定する。

●運行のイメージ

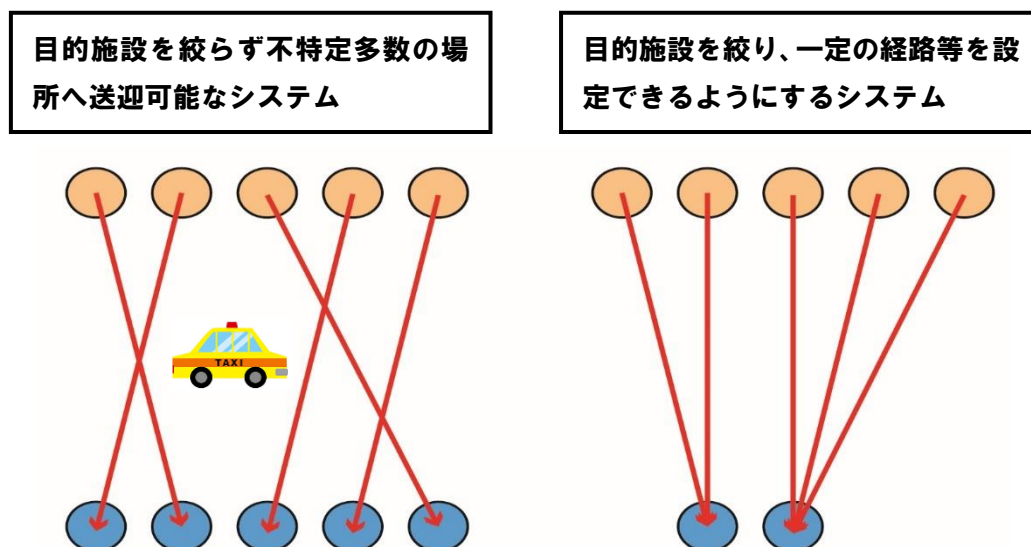


目的施設を絞らず不特定多数の場所へ送迎可能なシステムにすると、運行時間の延長や非効率なルート設定、運行費用の増加に繋がる。運行の効率化のため、予め指定されている目的施設への送迎に限る。

また、目的地を絞ることにより、利用者の乗合化を推進することができ、事前に運行ルートを想定することが容易となるため、効率的な運営ができる。

このようなことから、目的施設の指定制度を用いて運行する。

●目的施設指定の理由



(5)目的地の指定

目的地は運行区域内の医療機関、消防関係、郵便局、銀行、駅（鉄道）、バス停、県及び市の機関、商業施設に限定する。それ以外の目的地に直接行きたい場合は、民間のタクシーの利用を想定する。

今後詳細に検討し、場所を設定する。

(6)運行路線

駅やバス停で乗継をする場合、接続の時刻が重要となる。そのため、地区内の駅やバス停に先に行く運行方法等、乗り継ぎの利便性を高める方法を検討する。

(7)運行便数と運行時間帯

運行便数は、大まかなルートとの距離と車両台数に基づいて、今後検討する。

運行時間の設定にあたっては、市民の移動時間帯も考慮する。

●市民アンケートによる目的別の外出時刻と帰宅時刻

目的	外出時刻のピーク	帰宅時刻のピーク
通勤・通学	7 時台	18 時台
食料品・日用品の買物	10 時台	11 時台、12 時台、16 時台、18 時台
食料品・日用品以外の買物	10 時台、13 時台	14 時台から 17 時台
通院	9 時台	12 時台
公的施設利用・趣味等	9 時台	17 時台

●現行の銚田市乗合自動車の運行便数と運行時間帯

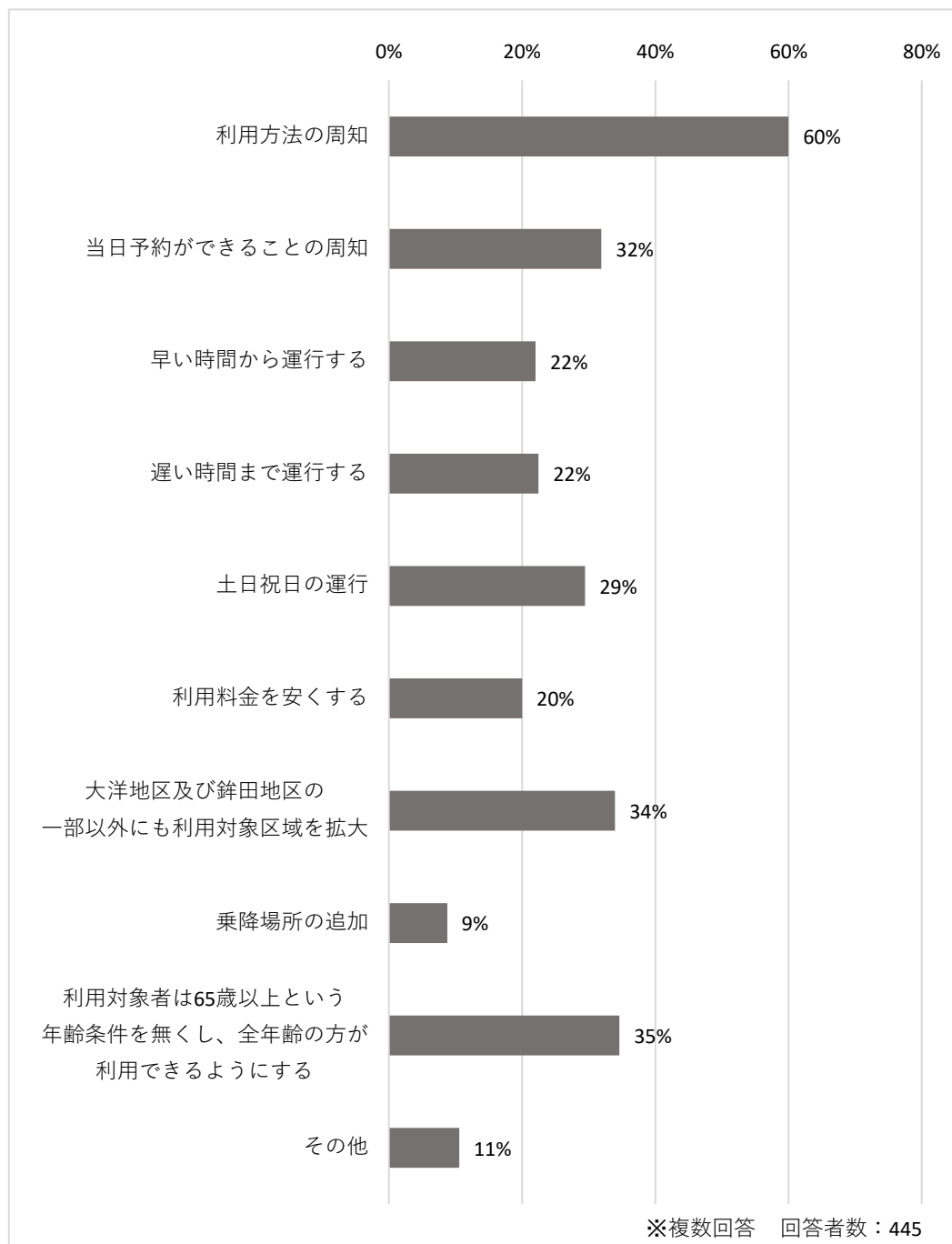
	大洋地区→銚田市街地	銚田市街地→大洋地区
第 1 便	8 時 3 0 分の便	9 時 3 0 分の便
第 2 便	1 0 時 0 0 分の便	1 1 時 3 0 分の便
第 3 便	1 3 時 3 0 分の便	1 4 時 3 0 分の便
第 4 便	1 5 時 3 0 分の便	1 6 時 0 0 分の便

(8)運行日

運行日は今後検討する。

現行の銚田市乗合自動車は月曜日から金曜日（土曜・日曜・祝日・年末・年始12/29～1/3は運休）である。市民アンケートでは土日祝日の運行の要望の声もあることから、土日祝日の運行も検討する必要がある。

●銚田市乗合自動車を乗りやすくする条件



(9)利用者

現行の銚田市乗合自動車では利用対象区域内に住む65歳以上の市民としている。しかし、運行区域の拡大に合わせ、年齢条件の緩和や廃止の検討の必要がある。

(10)利用方法

利用者は、予め利用者登録をし、自宅又は自宅近くの乗り場を決める。

利用は完全予約制とし、事前に電話にて利用したい便及び乗降場所を予約する。予約方法について、利便性を高めるため、ホームページやアプリ等電話以外の手段も検討する必要がある。

自宅から目的施設、目的施設から自宅、目的施設から目的施設への利用を可能とする。銚田中心地区で乗り継いで、他地区への移動に利用することについて可能にするか検討する必要がある。可能にする場合、乗り継ぎ料金の設定を検討する必要がある。

複数の利用者がある場合は、相乗りとなる。

●利用の流れ

①利用者登録



②事前予約



③タクシーに乗車



(11)予約受付

予約受付は、コールセンターの専門の受付オペレーターが乗降場所や時間等を確認しながら、予約を確定する。

現行の予約受付時間は、利用希望日の前日から出発希望時刻 2 時間前 (当日第 2 便以降対象) である。運行時間帯に合わせ今後検討する。

(12)利用料金

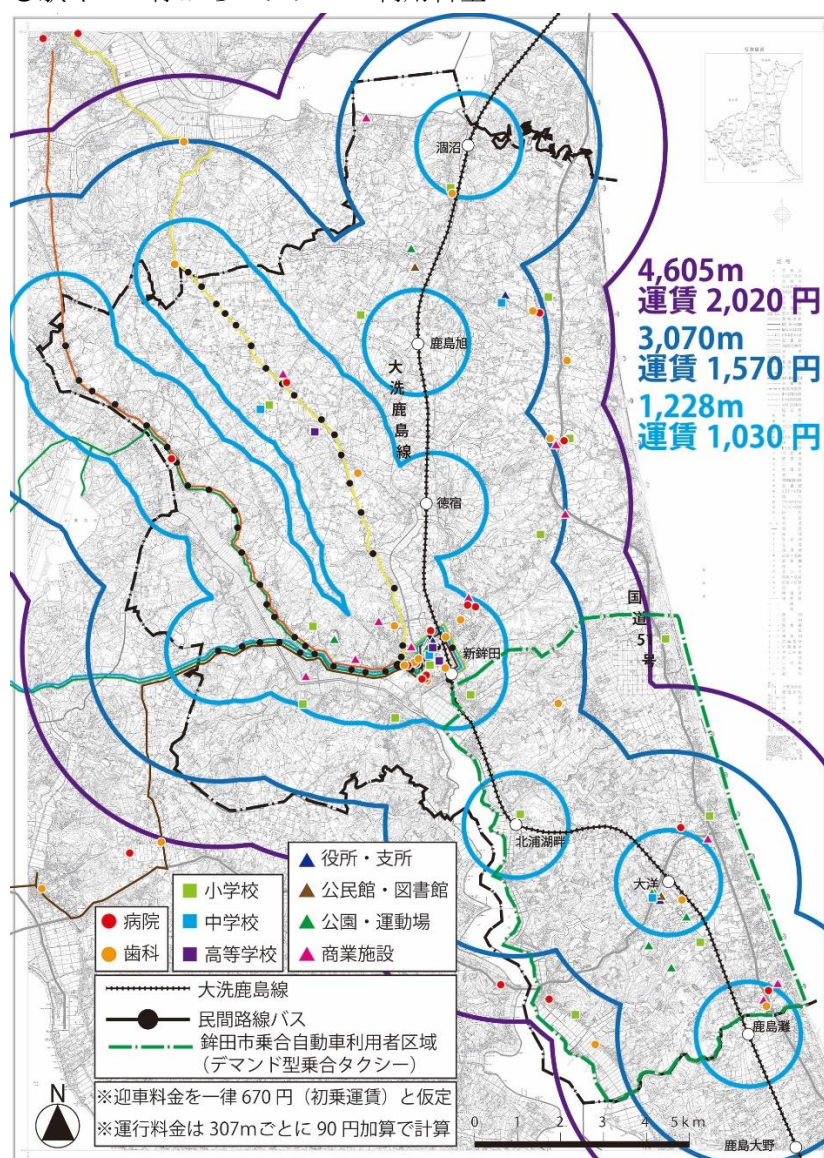
現況の銚田市乗合自動車では、1回（片道）の乗車につき 300 円である。

今後検討する必要がある。

駅やバス停に行く便とその他の目的施設に行く便での料金の変更、他地区への移動の際の乗り継ぎ割引、高齢者割引、障がい者割引等について検討する必要がある。

料金の設定にあたっては、既存公共交通の運賃や、タクシー料金に配慮しながら設定する。

●駅やバス停からのタクシー利用料金



(13)車両の種類

ワゴン型車両やセダン型車両等から今後詳細に検討する。

現行の銚田市乗合自動車は 10 人乗りのワゴン型車両を使用している。

しかし、大洋地区では舗装されていない狭い道路に面した住宅に住む市民も多く、自宅前まで入ってほしいという要望がある。そのため、セダン型タクシーの車両（運転士を含み 5 人乗り）の活用も検討する必要がある。その場合、1 台当たりの乗客は最大 4 人となる。

<ワゴン型車両のイメージ>



<セダン型タクシーの車両のイメージ>



(14)車両の台数

車両の台数は、利用者数の推計をもとにすると、旭地区で 1 台、銚田地区で 3 台必要である。予備車の台数や車両の種類の検討を踏まえ、今後詳細に検討する。

(15)運行事業者

市内交通事業者等から募集し、運行委託する。

(16)受付・予約窓口・コールセンター

現状では市役所福祉事務所（社会福祉課）及び大洋総合支所（総合窓口 G）が利用者登録と乗車券の購入窓口である。

今後は運行区域に拡大に伴い、運行委託事業者数が複数になる可能性が高い。利用者の利便性を高めるためには、複数の運行事業者を一元管理し、利用者の対応をすることが望ましい。利用者対応機能を市内法人、商工会又は社会福祉協議会へ委託している事例があることから、本市でも市内法人、商工会又は社会福祉協議会への委託を検討する。

また、利用者の利便性を高めるため、利用者登録や乗車券の購入窓口の増加を検討していく必要がある。

(17)運行開始日

令和3年度からの運行開始を想定する。

その後、利用状況、運行状況等を踏まえて評価を行い、必要に応じて改善を図る。

現行のタクシー利用料金助成事業と利用者層が重なることが想定される。効率的なサービス提供のため、タクシー利用料金助成事業からデマンド型乗合タクシーへの移行方法を検討する必要がある。

(18)試験運行

運行開始当初は試験運行を実施し、利用状況や運行状況を踏まえて、本格運行に移行することが考えられる。

(19)行政の役割

市が事業主体となり、運行事業者に委託して実施する。

(20)利用促進の取組

銚田市乗合自動車の利用対象区域での認知度は57%と低く、利用登録をしていない人が約5割と多い状況である。利用者数の確保には、情報の周知などの利用促進の取組が重要となる。

＜利用促進の取り組み例＞

- ・利用方法の案内の広報、チラシ作成、ホームページ掲載
- ・デマンド型乗合タクシー利用方法説明会の開催
- ・デマンド型乗合タクシー出張利用登録会の開催
- ・デマンド型乗合タクシーの試乗会の開催
- ・お試し乗車券の配布
- ・デマンド型乗合タクシーと乗継利用できる鉄道や路線バスの一体的な時刻表等が載った公共交通マップの作成

(21)既存公共交通機関のバリアフリー化の取組

デマンド型乗合タクシーから大洗鹿島線や路線バスへの乗継利用を想定しているため、大洗鹿島線や路線バスのバリアフリー化に取り組み、利用しやすい環境づくりをする必要がある。

（参考）銚田市乗合自動車の運行内容

銚田市乗合自動車は、事前に利用登録を行っている方がコールセンターに電話をし、利用予約を行い、自宅やその付近などから病院や商業施設などの特定目的地（乗降場所）までを運行する公共交通サービスです。

- ・ **運行日**：月曜日から金曜日（土曜・日曜・祝日・年末・年始 12/29～1/3 は運休）

・ 運行時間 ：		大洋地区→銚田市街地	銚田市街地→大洋地区
	第1便	8時30分の便	9時30分の便
	第2便	10時00分の便	11時30分の便
	第3便	13時30分の便	14時30分の便
	第4便	15時30分の便	16時00分の便

- ・ **予約受付時間**：午前9時から午後3時まで

予約は、利用希望日の前日から出発希望時刻2時間前（当日第2便以降対象）まで受け付けます。

- ・ **利用料金**：1回（片道）の乗車につき300円

- ・ **運行区域**：大洋地区及び銚田地区の一部

- ・ **目的地**：運行区域の医療機関、消防関係、郵便局、銀行、駅（鉄道）、県及び市の機関、商業施設等

- ・ **利用対象者**：大洋地区及び銚田地区の一部に住む65歳以上の方

- ・ **利用方法**：事前に登録を行い、利用希望日の前日から出発希望時刻2時間前（当日第2便以降対象）までに電話で利用予約をしてください。